

行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌

びぶろすーBiblos

71号（平成28年1月）

特集： 新聞を読む



表紙画像：(右上) 国立国会図書館新聞資料室

※特集記事「国立国会図書館新聞資料室について」を参照

閲覧机脇には最近の原紙が置かれている。奥の机は原紙が見やすいよう台が斜めになっている。

(左) 明治文庫所蔵新聞：左から「東洋自由新聞」「日本地」「大阪新聞錦絵」「新聞画解」

※特集記事「明治への窓、その向こう」を参照

(右下)「お山ん画（おやまんが）」

※記事「「まんが」で森林・林業を知ろう」を参照

※本誌掲載画像の無断複製・二次使用はご遠慮ください。

71号（平成28年1月） 目次

+++【特集：新聞を読む】+++++	
『特集：新聞を読む』につきまして	2
国立国会図書館新聞資料室について ～概要、利用方法及び探し方について～ 国立国会図書館利用者サービス部図書館資料整備課	3
明治への窓、その向こう 東京大学大学院法学政治学研究科附属 近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫 白石慈	7
<small>つのはず</small> 角 筈 図書館の業界紙誌と新聞資料について 新宿区立角筈図書館 松永剛政	10
イギリスの新聞：その利用方法と特徴 国立国会図書館調査及び立法考査局海外立法情報課 岡久慶	13
+++++	
第101回全国図書館大会東京大会に参加して ～図書館における個人データの適切な扱いとデジタル化資料の長期保存～ 支部気象庁図書館 篠原吉雄	15
+++++	
【支部図書館紹介】 「まんが」で森林・林業を知ろう ～情報誌と支部図書館との連携～ 林野庁林政部林政課渉外広報班 板垣靖	17
学術の発展を支える ー支部日本学術会議図書館ー 支部日本学術会議図書館 大森審士	20
【各国在日図書室紹介】 OECD東京センター閲覧室について ー世界最大のシンクタンクからの情報提供ー OECD東京センター 高橋しのぶ	22
日 誌（平成27年10月～平成27年12月）	24
国立国会図書館刊行物紹介（平成27年10月～平成27年12月）	25

『特集：新聞を読む』につきまして

新聞は即時性をもった情報源として長い歴史を持ち、広く親しまれてきました。インターネットが主流となった現代においても、一次資料としての重要性は依然高いと言えます。

また、発行当時の世相や事件・事故などの生々しい状況を知るうえで有用な資料群とも言えるでしょう。

そこで、今号では新聞資料を広く収集している図書館に、自館の特色、どのような資料を所蔵しているかなどをご紹介いただいています。

併せて、当館新聞資料室の概要と海外新聞（具体的にはイギリスの新聞について）の利用方法を紹介しております。

『びぶろす』は Web で刊行していることもあり、サイトで利用できる関連情報にリンクを貼っていますので、各館のレファレンス、ご自身の調べものなどにもご活用いただけるのではないのでしょうか。

皆さまの業務の参考となれば幸いです。

(編集担当)

*** “びぶろす” とは***

ギリシャ語で古代ギリシャやエジプトで書物用の紙として広く流通していたパピルスを意味しています。

“紙”が古来情報流通の手段として重要な役割を担ったように、“びぶろす”も支部図書館と専門図書館の情報誌としての情報発信に努めます。

【特集：新聞を読む】

国立国会図書館新聞資料室について

～概要、利用方法及び探し方について～

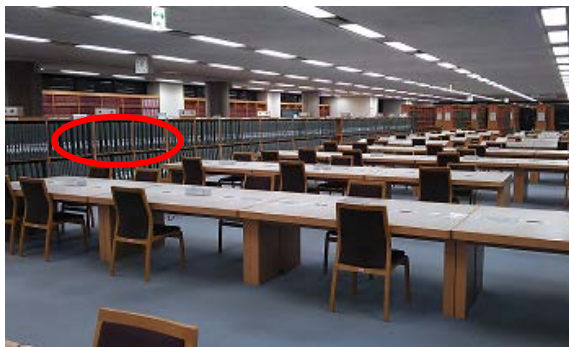
国立国会図書館 利用者サービス部図書館資料整備課

1. 新聞資料室 について

国立国会図書館新聞資料室は、東京本館の新館4階にあります。全国紙、地方紙、業界・専門紙、スポーツ紙、政党紙など、約9,570タイトルに上る日本語の新聞と、主な外国語の新聞約1,170タイトルを所蔵しています。それらは原紙、縮刷版・復刻版、マイクロフィルムなど、さまざまな形態で保存されています(詳細は2.新聞の形態をご覧ください)。

新聞資料室内には主要な日本語新聞91タイトル、外国語新聞6タイトルの、最新4～8か月分をバインダーに綴じて開架しています。また、主要新聞の縮刷版・復刻版37タイトルも室内に開架しています。その他の新聞は、書庫内に収蔵しています。

なお、CD/DVDなどのパッケージ系電子出版物の新聞は [電子資料室](#)、[プランゲ文庫](#) の新聞は [憲政資料室](#)、アジア言語の新聞は関西館 [アジア情報室](#) で所蔵しています(アジア言語の新聞は、『人民日報』『朝鮮日報』など一部のタイトルの最新3年分に限り新聞資料室でも所蔵しています)。



新聞資料室(赤丸がバインドした原紙。手に取って利用できる)

2. 新聞の形態

当館での“新聞”の定義は、同一のタイトルのもとに、巻次、年月次を追って、個々の部分(巻号)が継続して刊行され、終期を予定しない資料(逐次刊行物といいます)のうち、以下の形態の資料としています。

- ①大きさが36cm以上
- ②折っただけで綴じがない
- ③表紙に記事があり、表紙と本文が同一紙質オリジナルの紙の新聞を原紙と呼び、利用頻度が高い主要なものはバインダーに綴じて新聞資料室に開架してあります。書庫内に収蔵した原紙は、ある程度の分量になり次第、保存のため、製本しています。

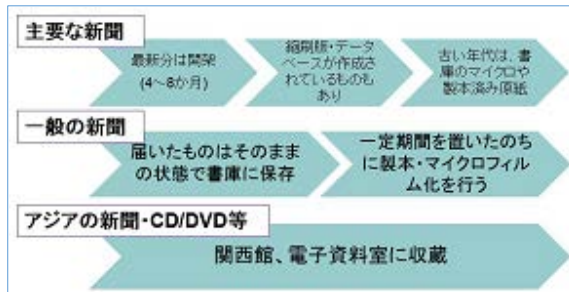
新聞の紙面を縮小して冊子にしたものが縮刷版・復刻版です。新聞の紙面を撮影したマイクロフィルムも所蔵しており、マイクロリーダーで拡大して閲覧します。



マイクロリーダー(フィルム閲覧時)

マイクロ資料にはロール形態のものと、シート形態のものがありますが、当館の新聞マイクロ資料はほとんどがロールフィルムです。

明治から昭和 20 年代にかけて発行された古い新聞は、ほとんどマイクロフィルム化されています。マイクロフィルム化済みの原紙は保存のため閲覧には供さず、マイクロフィルムでご利用いただけます。



新聞形態まとめ

3. 新聞資料の利用方法

新聞資料室の資料は、他の専門室の資料と同様に館外貸し出しは行っておりません。館内での利用のみとなります。また、来館後に利用申込をする方式のため、来館してから待ち時間が発生したり、他の利用者と競合することがあります。さらに、形態によって複写方法が異なり、通常のコピー機での複写よりお時間をいただくときもあります。新聞資料をご利用になる際には、時間に余裕をもって来館されるようお願いいたします。基本、何かの記事の閲覧や複写が目的だと思いますので、来館前にインターネットや参考資料等で、その記事が掲載されている新聞タイトル及び掲載日付について、確認・メモしておく、よりスムーズにご利用いただけます。

1) 閲覧

新聞資料室内のバインダー新聞や縮刷版等は、室内で自由にご覧いただけます。書庫内の資料は、新聞資料室にある紙の「資料請求票」に、閲覧したい新聞のタイトル・年月日などを記入して入口の受付職員にお渡しください。出庫するまで 15 分ほどお待ちいただけます。一度に書庫から出納する点数に制限

を設けており、多くの資料を利用する場合は、「申込み」→「閲覧（複写）」→「返却」を繰り返します。

2) 複写

複写をご希望の場合は、閲覧時に複写箇所を特定し、受付職員に伝えてください（開架資料の場合、この段階で資料請求票に記入する）。以降の流れをご案内いたします。

4. 掲載新聞や新聞記事を探す

● タイトルから新聞を探す

NDL-OPAC の場合は、「詳細検索」のタブを開き、「新聞」「電子資料」にチェックを入れて検索します (①)。その他のプルダウンメニューや「各種番号・コード」を用いることで (②)、出版国や言語等で絞り込むことも可能です。



NDL-OPAC の「詳細検索」画面

ただし、当館では一部、整理時の基準等に従って雑誌や図書として扱っているものもあるので、ヒットしない場合は「図書」「雑誌」にチェックしなおして検索してみてください。所蔵確認（所蔵詳細）のページに「一覧に表示されない資料を所蔵しています」と表示されたものは、新聞原紙の場合、まだ製本されていない年代の所蔵がある（概ね最近のものです）という意味です。最新号の所蔵を確認するには、電話等でお問い合わせください。



「一覧に表示されない…」の表示

しばらくお時間をいただき、当館職員が最新号の日付を確認してお伝えします。

[国立国会図書館サーチ](#)でもタイトルから新聞を検索することができます。こちらは、当館の所蔵だけでなく、他の図書館等での所蔵情報も収録しています（当館で所蔵していない資料や、巻号も表示されるのでご注意ください）。基本的な使い方は、「簡易検索」①のタブでキーワードを入力し、「新聞」をクリックします②。検索結果で「新聞総合目録」と表示されているものが、他の図書館等の所蔵情報になります。

前述のように新聞の資料形態は多様であり、慣れていないと分かり難い場合もありますので、不明な点は受付職員にご相談ください。



国立国会図書館サーチの「簡易検索」画面

1 当館請求記号：Z45-10（新聞資料室にも参考図書として開架）



検索結果の「新聞総合目録」表示

- テーマから新聞を探す

ツールの1つは年刊誌の『[雑誌新聞総かたろぐ](#)』¹です。現在国内で刊行中の定期刊行物約18,000件以上の情報を収録、新聞・通信類については3,000件以上を収録しています。分野コード一覧表から細分類を参照して、資料の詳細なデータが書かれた本文ページを見ることができます。同誌では雑誌として扱われていても当館では新聞として所蔵している（またはその逆の）ケースや掲載された新聞を、当館が所蔵していないケースもありますので注意が必要です。

もう1つのツールは、[リサーチ・ナビ](#)の「[新聞をさがす](#)」です。リサーチ・ナビは、[当館ホームページ](#)のコンテンツで、テーマごと、または当館所蔵の特色ある資料群ごとに、ツールや関連機関を紹介していますが、一部の分野（例：食品産業など）については、関連する新聞も紹介しています。関西館アジア情報室で所蔵する、各地域関係の継続受入新聞リストは、リサーチ・ナビの「[アジア諸国の情報をさがす](#)」に掲載されています。

- 新聞記事を探す

また、当館で契約している新聞データベースを、館内の利用者端末で利用することができます。支部図書館、専門図書館の方が館内の利用者端末利用する場合は、職員にご相談ください。

日本語の新聞では、毎日新聞の「[毎索](#)」、

読売新聞の「[ヨミダス歴史館](#)」、朝日新聞の「[聞蔵II ビジュアル](#)」、日本経済新聞・日経産業新聞・日経流通新聞の「[日経テレコン21](#)」、産経新聞の「[The Sankei Archives](#)」が利用できます。外国語の新聞は、約1,000タイトルの記事を収録した「[ProQuest Central](#)」、中国の主要新聞400タイトルの2000年以降の記事を収録した「[中国重要新聞データベース](#)」が利用できます。新聞資料室ほか各専門室の端末で利用できます。

これらは、データベースによって、記事の表示形式が紙面のイメージのもの、切抜イメージのもの、テキスト表示のものがあります（ただし同じ新聞でも発行年代で表示形式が異なることもあります）。また全国紙のデータベースでは、地域面の記事検索が地域や年代によってはできない場合があります、注意が必要です。

そのほか、[電子資料室](#)で所蔵するパッケージ系電子出版物の中には、見出しや記事をキーワードで検索できるものがあります。また、インターネット上で一般に公開されているウェブサイトでも、記事検索が一部可能なものがあり、前述の「[新聞をさがす](#)」の中の「[無料記事検索サービス](#)」で紹介しています。

(としょかんしりょうせいびか)

【特集：新聞を読む】

明治への窓、その向こう

東京大学大学院法学政治学研究科附属

近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫 白石 慈

はじめに

[東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫](#)

(以下、「明治文庫」といいます。)は、ジャーナリスト宮武外骨と東京帝国大学教授吉野作造のコレクションを中心として、博報堂創業者の瀬木博尚氏の寄附により、昭和2年3月に東京帝国大学法学部に開設されました。大正12年の関東大震災による明治期の新聞雑誌の散逸状況を憂い、明治文化及び明治期活字資料の発掘を行うとともに、新聞雑誌保存館が必要であるという構想に基づくものでした。

当初は第一高等学校(現在の東京大学農学部)で業務を行い、昭和4年に現在の東京大学史料編纂所地下に移転しました。



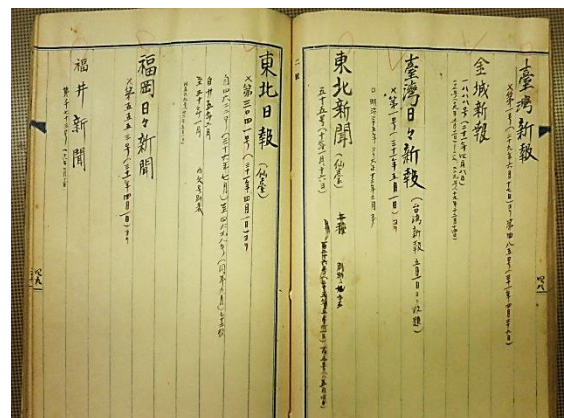
明治文庫入口

1. 外骨による収集

¹ 西田長寿「紙魚三十年」『図書館の窓：東京大学附属図書館報』東京大学附属図書館，4(3)，1965.3，p.26 <国立国会図書館請求記号：Z21-282 >

明治文庫の初代事務主任となった外骨は還暦を過ぎていましたが、日本各地をまわり資料の収集に尽力しました。収集方針は、当初は明治期に発行された新聞・雑誌・図書でしたが、後に、大正期・昭和戦前期までを収集対象としました。

外骨自筆による新聞所蔵目録の稿本(作成年代不明)を見ると、北海道から沖縄、さらには台湾など海外の新聞まで収集され、400タイトル近くを数えます。



「新聞所蔵目録」(稿本・外骨自筆)

「わし一代は蒐集の時代だ」これが宮武先生の私共へくりかえし言われた言葉であった¹と、昭和5年～39年まで明治文庫に勤務した西田長寿が後に述べています。外骨が収集した資料は、現在でも明治文庫のコレクションの中核をなしています。

2. 外骨以後の収集

外骨は昭和24年に83歳で退職しましたが、その後も明治文庫では収集や整理を地道

に続けました。こうした努力が時に“宝物”をもたらすことがあります。数ある“宝物”から二つ、ご紹介させていただきます。

1) 牧野新聞—新聞としての再出発—

寄贈された新聞原紙の宝物の一つに、「牧野新聞²⁾」というコレクションがあります。

このコレクションは少々特殊で、「牧野新聞」というタイトルの新聞があるわけではなく、植物学者の牧野富太郎博士が各地で採取した植物の押し葉に使用した新聞でコレクションを構成しています。博士が採取先で買い上げた新聞で、日本のみならず中国など海外の新聞も含まれています。

博士の没後、[東京都立大学（現・首都大学東京）牧野標本館](#)で標本の整理が進められていましたが、昭和50年頃に当時の明治文庫掛長北根豊が、標本が取り出された後の新聞を譲り受けるべく力を尽くしました。以後、送付されてくる新聞を整理する作業が平成10年まで続きました。

新聞は標本に使用されていたため、保存状態が悪く、裁断され、油性インクでの書き込みもあります。しかし、明治期～昭和戦前期の新聞原紙が入手しにくくなっている現在、使用済みのこのような新聞であっても、これら資料が伝える情報は非常に貴重です。

明治文庫では、この貴重な新聞群である牧野新聞の永続的な保存と利用のため、補修とマイクロフィルム撮影を行いたいのですが、財政難の折、実現が難しい状況です。

なお、このようにまとまった量の新聞を譲り受けることもあれば、個人からの寄贈もあります。先日も、明治・大正期の「いはらき

3) などの地方紙を思いがけず頂戴しました。また、10年以上にわたり資料の寄贈を続けてくださる方もおられます。

2) 屏風に眠る新聞

今回は、明治文庫に眠っていた“宝物”をご紹介します。

誰が、どこから、どのようにして持ち込んだのか不明なのですが、書庫の奥に古い屏風（6枚あるので六曲一隻?）がありました。職員が試しに一曲分を剥がしてみたところ、明治39年の「讃岐日日新聞⁴⁾」が現れました。

[NDLサーチ](#)で全国を探しても、所蔵館は見当たりません。[日本新聞博物館](#)の赤木孝次氏に伺ったところ、「(同紙は)現在の四国新聞につながる新聞ではなく、当館には1点所蔵がありますが、非常に貴重なのではないのでしょうか」との回答を得ました。となると、ほかの五曲にも明治期の反古紙が貼られており、同様に貴重な新聞が眠っている可能性が充分にあります。

現在、この屏風は専門業者によって反古紙や新聞を剥がす作業が行われており、どんな新聞が出てくるのか、宝探しのようでわくわくしています。

3. 新聞の利用と保存

明治文庫では現在でも新聞原紙の収集に努め、利用に供しています。そのため、テレビ番組やビデオ等で使用する原紙の撮影に協力することがあります。今年に入って「日本⁵⁾」という新聞の撮影がありました。撮影をしていた方が「本物には力がありますね」と話されたのが印象に残っています。

²⁾ 「主な文庫・コレクション」『[東京大学附属図書館概要 2015/2016](#)』東京大学附属図書館,[2015],p.10

³⁾ 明治24年刊行。茨城新聞の前身となる新聞

⁴⁾ 明治33年から大正7年まで香川県で発行された新聞

⁵⁾ 明治22年から大正3年まで発行された新聞。陸羯南、福本日南などによって創刊。正岡子規、河東碧梧桐、佐藤紅緑等が記者として在籍した。

しかし、新聞紙は紙の材質がよくないものが多く長期保存に向いていません。劣化の進む原紙を保護するため、復刻版やマイクロフィルムを利用をお願いしていますが、温度・湿度の変化に弱いマイクロフィルムの保管に適した書庫環境を長い間つくることができず、マイクロフィルムの劣化が進んでいます。平成25年度に保管庫を設置し、マイクロフィルムの保存環境を整備したものの、一度劣化したフィルムを元に戻すことはできません。明治文庫のマイクロフィルムは約16,000リールありますが、その一割強が劣化し、利用が難しくなっています。

現在、フィルムの複製を作る計画を立てていますが、費用の問題があり思うように進んでいません。



明治文庫所蔵新聞：左から「東洋自由新聞」「日本地」「大阪新聞錦絵」「新聞画解」

4. 所蔵検索システム「明探」

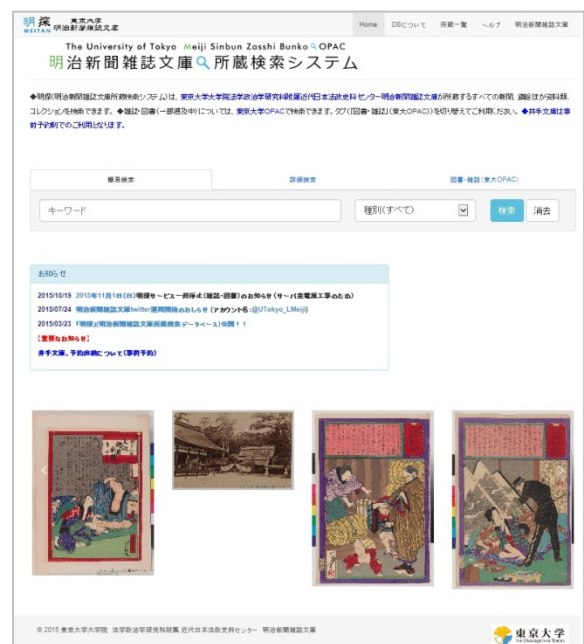
また、当館では所蔵資料情報の公開も進めています。2015年3月23日、明治文庫はオンラインの所蔵検索システム「明探」を公開しました。

これは、[公益財団法人図書館振興財団](#) 平成26年度振興助成事業助成金の交付を受け開発したシステムです。

これまで明治文庫所蔵の新聞資料はオンラ

インで検索することができませんでしたが、インターネット環境があれば24時間どこからでも検索が可能です。PCだけではなく、タブレットやスマートフォンにも対応しています。また、錦絵新聞や古写真の画像を閲覧することもできます。

公開当初より遠方の利用者や大学等の研究者に喜ばれています。海外からのアクセスや問い合わせも多く、今年度に入って、海外からの来館者は既に100名を超えました。これは前年度の同時期と比べて3.5倍の増加です。



明治新聞雑誌文庫所蔵検索システム「明探」

この「明探」は、学内でも評価され、2015年度「業務改革総長賞」特別賞を受賞しました。

「明探」という名は、利用者に明治期への窓を開く一助となるように、つけられました。まずは、この明治への窓を開いてみてください。その向こうに明治文庫があります。資料を通じて、明治という熱い時代を感じていただけたらと思っています。

(しらいし めぐみ)

【特集：新聞を読む】

つのはず

角筈図書館の業界紙誌と新聞資料について

新宿区立角筈図書館 松永 剛政

はじめに

[新宿区立角筈図書館](#) は平成元年 9 月 5 日に新宿区立図書館の地域館として、複合施設である角筈地域センターの 5・6 階に設立されました。現在、ビジネス情報支援の拠点館という位置づけになっており、新宿区内の図書館としては初めて図書館情報システムが導入された館でもあります。

西新宿の高層ビル群の更に西に立地しており、大規模ターミナル駅である新宿駅から 1km ほど離れています。近隣には大きな公園もあり、いつも多くの人で賑わっています。平日の利用者の多くは新宿区外から西新宿地区への通勤者で、土日は地域住民の利用が多く見られます。ビジネス情報支援の拠点として、地域貢献の場として、両局面を保有した特色ある地域図書館と言えるでしょう¹。

平成 22 年 4 月 1 日から指定管理者による運営を開始し、現在は民間企業である[株式会社図書館流通センター](#)が運営しています。

本稿ではビジネス情報支援の視点から、業界紙誌・新聞の収集、ビジネスコーナーの設置、講演会・ビジネス情報相談会の開催など、情報収集のプロセスや収集した情報・データの保管と管理方法、そしてその情報の利用促進、アウトプットの仕方などを記します。

1. 業界紙誌の収集に関して

新宿区立図書館の基本方針として、「ビジネス支援、医療健康支援など区民の知りたい要望に応え、的確な情報提供ができるよう、そ

の強化が求められている」という一文があります²。その中でも角筈図書館は、ビジネス情報支援の一環として、調査に役立つ資料の基本である、新聞・雑誌・官公庁統計・各種年鑑・業界団体の資料・民間調査会社の資料などをメインに収集しています。その他にも速報性・専門性を考え、業界紙誌（業界の新聞や雑誌）を多数収集しています。しかし、業界紙誌は余りに種類が多く、限られた予算内では十分な数を購入することが難しくなっています。

そこで、数年前から寄贈を依頼して収集することとしました。当初は地場産業である印刷・染色業をはじめ、ビジネス相談会で相談を受けることが多い飲食業などを重点的に収集していましたが、現在ではさらに流通・医療・メディア・建設・不動産など、13 分野にジャンル分けして収集し、ビジネスコーナーに配架しています。残念ながら休廃刊になったものも多いですが、バックナンバーも含め、一部は事務室に保管しています。



業界紙誌のコーナー

¹引用：『しんじゅくの図書館』新宿区立中央図書館 編、新宿区立中央図書館 2015, 2015.9,p2-7<国立国会図書館請求記号：Z21-2251>

²引用：前掲,p96

448タイトル（平成27年11月現在）の所蔵のうち、多くは管理の都合上から館内閲覧に限っていますが、特に需要の見込まれる75誌に関しては貸出を行っています。このうち、web上での閲覧が可能なものは約3分の1の24誌に留まっており（全ページ閲覧可能なものは13誌）、紙媒体での所蔵が求められる所以です。

2.新聞の収集に関して

当館ではビジネス情報支援の一環として、情報入手にあたって有効な一次資料である新聞の収集にも力を入れています。インターネットが普及した現在でも新聞を利用する人は非常に多く、一次資料としての信頼性の高さ、情報の有用性を強く感じさせます。また、前項で紹介したように、週刊や月刊で発行される業界紙誌も多く所蔵していますが、情報の取捨選択の速さを重視し、ほぼ毎日発行される速報性の高さが新聞を収集している理由にもなっています。

当館では主要5大紙をはじめとして、経済情報に詳しい「日経産業新聞」、「日経ヴェリタス」といった新聞や、近隣の企業に関連する食品、印刷・出版、染織・アパレル関係の業界情報に詳しい「食品新聞」、「織研新聞」といった専門紙も揃えており、全18紙を常時閲覧できます。この18紙の選択にあたっては、数多く発行されている新聞の中でも、多種多様な分野の情報変化に耐えうるように経済情報全般について書かれている新聞から、専門的な情報を伝達する新聞までを常時閲覧として置くことにより、幅広いニーズに応えたいという狙いがあります。例えば「株式新聞」は証券専門紙で、平日毎日刊行されており、利用者からの需要が高いことが収集を決めた理由です。同紙は、新聞の最大の利点である紙媒体としての速報性と専門紙の利点の

専門性の双方を兼ね備えている代表的な専門紙ですが、このような新聞を用意することが、ビジネス情報支援の拠点館としての役割を果たす一助となっていると考えております。

バックナンバーもできる限り保管しており、「朝日新聞」「読売新聞」「毎日新聞」「日本経済新聞」は5年分の縮刷版を購入しています。これらの新聞は近隣に勤めている利用者から地域住民まで多くの利用があり、需要の高さを感じます。



新聞開架コーナー 平日の日中はほとんどの新聞が利用されており、バックナンバーの利用も多く見られます。

3.ビジネス情報相談会について

新宿区立図書館のビジネス情報支援相談会は、公共機関の中でも足を踏み入れやすい図書館で起業・業務改善の第一歩を踏み出してもらうことを目的として、中央・角筈の二館で平成18年10月から行われています。

相談会では月に一度ずつ、中小企業診断士を招いて利用者の相談に個別に応じており、その際、相談内容に合った図書・雑誌の提供も行っています。（『業種別審査事典』『業種別業界情報』をはじめとした、当該業界の資料、起業方法や事業計画書に関する資料など）。

参加者は全く起業の経験がない初心者の方から、すでに会社を興しておりその方向性や新しいアイデアを求めに来るような方まで多種多様です。

参加件数は昨年度までで 418 件、うち 218 件が角筈図書館での相談となっています。相談者のうち、相談をきっかけに起業したのは昨年度までで中央・角筈合わせて 19 件あり、角筈での一例が『エコノミスト』誌で紹介されたこともあります³。

4. 常設展示に関して

6 階ビジネスコーナーには常設展示として起業・創業に関する展示を行っています。起業に関して有用な資料を、導入からマーケティング、事業計画書などの揃え方、資金調達、人事・労務、広告・宣伝に至るまでを一連の流れとして展示しています。ビジネス情報支援相談会において飲食業の相談が多かったため、飲食業をモデルとしており、約 440 冊が展示されています（平成 27 年 11 月現在）。



起業・創業コーナー
手に取りやすいように分類して展示を行っています。

おわりに

「ビジネス」という言葉は現代社会においてはしばしば抽象的です。その中でビジネスライブラリーとしての形を創りあげるために日々模索を繰り返しています。必要な資料、情報を的確に収集し提供するためには変化に柔軟に対応することや、常にアンテナを高く保っていることが求められます。今後も収集

する資料は精査し、多様化するニーズに対応できるようにしていきたいと考えています。

と同時に、地域図書館としても地域住民に社会貢献できるように開かれた場所でありたいと望んでいます。

私たちは必要な情報を、全ての利用者に、的確に提供したいと考えています。利用者はまさに「ビジネス」として必要な方もいれば、生活の一部として娯楽を求めている方もいます。両立のバランスを取るのは難しいですが、その分やりがいを強く感じています。

本稿では一次資料に関して多くの紙面を割きましたが、今後は直接資料を調査するだけでなく、インターネットを通じた資料へのアクセスが可能な図書館⁴という形も求められていくでしょう。時代の流れに沿って変化しつつ、情報拠点として、文化を発信する施設として、進化を遂げていきたいと思えます。

(まつなが たけまさ)

執筆協力：須田達夫 奥村紘美 篠田翔平
石崎珠子



角筈図書館（角筈地域センター5・6F）
四角部分からお入りいただけます

³ 「使える図書館」『エコノミスト』毎日新聞社,87(7) 2009.2,p.77-81<請求記号：Z3-96>

⁴ ビジネス情報ページでも情報提供を行っている。例：[飲食店開業編](#)

【特集：新聞を読む】

イギリスの新聞：その利用方法と特徴

国立国会図書館調査及び立法考査局海外立法情報課
岡久 慶

国立国会図書館 [調査及び立法考査局](#) 海外立法情報課は、国の法律の立法動向、翻訳等の紹介を主な職務としています。その前身は海外の一般情勢の予測調査を行う海外事情課ということもあり、当課では職員それぞれが担当する国の主要紙の最新版を手元に置いています。業務内容の変化に伴い、ツールとしての比重は減っていますが、法律の背景となる社会情勢、その反響等を調べる上で、新聞を使用する機会は少なくありません。

本稿では、イギリス担当である私の経験から新聞及びニュースサイトを通じた情報の集め方、そしてイギリスの新聞の特徴等についてご紹介したいと思います。

前述したように、当課の業務は法律の調査であり、新聞記事に1つ1つ目を通す時間的余裕はありません。そこで役に立つのが、ニュースサイトにおける、その日の新聞のトップ面をリストアップしたページです。私が利用しているのは、[Sky News](#)の〇〇（曜日）'s National Newspaper Front Pages と [BBC UK](#)における [The Papers](#) です。BBCの方が記述が詳細で、新聞トップの画像を掲載しているため記事の論調等が伝わり易いと思います。

また自分の調べたい題材が分かっている場合は、[google.uk](#)を使い、キーワードと検索式 `site:http://...`（新聞ウェブサイトのトップページ）の掛け合わせでサイト内を検索することで、情報を探し出すことができます。



Sky News. 赤い囲み部分をクリックすると、当日の各紙の一面を表示する(拡大表示等は不可)。

基本的に新聞記事の閲覧はインターネットで行います。当課ではタイムズ、インディペンデント、ガーディアン（とその日曜版であるオブザーバー）、そしてフィナンシャル・タイムズの最新版を保管していますが、現物よりインターネットの方が記事を探すのが楽で、調査に利用する上でも、タイトルや抜粋を執筆中の原稿にコピーペーストできるウェブページの方が遥かに使いやすいからです。

残念ながらタイムズとフィナンシャル・タイムズに関しては、インターネット記事の前に「有料の壁」が立ち塞がります。フィナンシャル・タイムズに関してはグーグル検索にヒットした流れで記事が分かることもあるので、一度は記事名での検索とアクセスを試していますが、タイムズは隙がありません。

新聞のウェブサイトで直接閲覧ができない場合は Proquest 社のデータベースを使いますが、フィナンシャル・タイムズの記事は Proquest への掲載が1か月遅れるので、最新記事が見たいときは現物を閲覧しています。

次にイギリスの新聞について簡単にご紹介します。当課で保管する日刊4紙にテレグラフ、i (インディペンデントの姉妹紙) を加えたものが、「クオリティ・プレス」と呼ばれるお堅い全国紙です。また、クオリティ・プレス以外にも「ポピュラー・プレス」なるセレブ情報、人情話、センセーショナルな話題に重点を置いた新聞のジャンルが存在します。厳密に言えば、ポピュラー・プレスは「ミッド・マーケット」と「レッド・トップ」に分けることができます。その違いを、大まかに分類すれば、ミッド・マーケットが女性週刊誌、レッド・トップはスポーツ新聞と言えるでしょうか。

イギリスの新聞全般に言えることですが、日刊紙は日曜日には刊行されず、日刊紙の日曜版に当たる姉妹紙が同じ新聞社から出されています。概ねタイトルはサンデー〇〇(日刊紙のタイトル) となりますが、ガーディアンとその日曜版にあたるオブザーバーのように違うものもあります。いずれにせよウェブサイトは共通なので、インターネット上で閲覧する限りは特に問題ありません。

最後に、政治的志向性が顕著であることもイギリスの新聞の大きな特徴であると言えます。新聞が選挙前に社説で特定政党支持を訴えるのは普通で、読者層の投票傾向もそれに倣う傾向があります。当課で保管している新聞で言えば、タイムズが中道右派、テレグラフが右派で明確な保守党支持、ガーディアン及びオブザーバーが中道左派でリベラル、フィナンシャル・タイムズが中道、経済的リベ

ラルといった傾向がみられます。インディペンデントは市民的自由と市場経済を支持する経済・社会面でリベラル傾向の強い新聞で、政治的には名前の通り不偏不党だったのですが、イラク戦争への反対を始めた辺りから大分左派的色彩を強めているように見えます。

こうした新聞の特徴を維持する上で大きな役割を果たしているのが、各新聞が抱える論説者です。彼らは多くの場合長く特定の新聞社に所属し、政治・社会の問題に対して旗幟を鮮明にした論説を書きます。複数の異なる、それでも大まかな方向性の類似した論説が新聞の空気感を作り、それを居心地が良いと考える読者層を引き寄せる、そんな印象を受けます。

インターネットのお蔭で、私達を取り巻く世界の情報は簡単に手に入ります。しかし新聞の存在は、その情報を個人個人が最初から持っている価値観なりとすり合わせるのに重要なかもしれません。「イギリス人の家は城」という諺がありますが、「イギリス人の新聞は世界を覗く窓」というのが私なりの所見です。

(おかひさ けい)

第 101 回全国図書館大会東京大会に参加して ～図書館における個人データの適切な扱いと デジタル化資料の長期保存～

支部気象庁図書館 篠原 吉雄

1. はじめに

[日本図書館協会](#) 主催の [標記大会](#) が平成 27 年 10 月 15 日から 16 日にかけて、「図書館は地域の広場 生きる力」をテーマとして、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。16 日の第 11 分科会（図書館の自由）及び第 15 分科会（資料保存）の両分科会で興味深かった点を中心に報告させていただきます。

2. 大会初日（全大会、シンポジウム）

大会初日の 15 日には全体会の後にシンポジウムがあり、公共図書館の活性化の取り組みについての議論が行われました。町の図書館は「ふるさと創生」の政策の中で文化的な拠点としての役割が期待されているようです。

3. 第 11 分科会（図書館の自由）

第 11 分科会では、中央大学の宮下准教授より、ビッグデータの活用やマイナンバー制度が進捗する中で、個人情報の取り扱いについての課題と、そのガバナンスを制度化する個人情報保護法についての説明がありました。

図書館は利用者情報としての個人情報を管理しているので、その扱いには注意を払う必要があります。プロファイリング技術の先鋭化により、単に名前を消したとしても容易に個人が特定されてしまい、借りた本等から思想信条などの機微情報¹が分かってしまうので管理に気をつける必要があるとのことでした。またデータ漏洩にも注意が必要で、図書館システムのログの管理等に注意することが望ましいようです。データ漏えいに対する補償額

は個人の基本的な情報(名前、住所、連絡先等)ならば 1 件数千円程度ですが、数が多いと莫大な額になるので甘く見てはいけないとのことでした。

個人情報を利用する目的は組織内の運用改善に限られ、それ以外を対象となる個人の許諾が必要とされています。方法としては、オプトアウト(対象者が特に拒否等表明しない限り、個人情報を利用する)と、オプトイン(対象者から明確に許諾を得ない限り個人情報を利用しない)の 2 つがありますが、行政機関はオプトインを採用することになっています²。ツタヤが管理する図書館での T-ポイントカード使用 についての問題点がこの視点から指摘されていました。

本来この分科会は、問題視されている類の本を図書館としてどう扱うか検討することに主眼があるようで、筆者の所属する気象庁図書館のような分野が限られている専門図書館の事例に引き合わせて考えるのが難しい部分もありましたが、今回は個人情報保護法と関連してデータの扱いに関する解説を聴くことができたのは幸運だったと感じています。

4. 第 15 分科会（資料保存）

第 15 分科会ではデジタルデータの資料保存についての説明がありました。デジタルデータは資料として年毎に割合が増加していますが、その寿命が予想していたよりもかなり短いことにまず衝撃を受けました。紙媒体の資料は扱いに気をつければ 100 年保たせることはそう難しいことではないようですが、

¹ 個人情報保護の観点からは、情報漏えいによって[社会的差別](#)を受けうる情報のこと（OECD個人情報保護ガイドライン）。センシティブ情報ともいう。

² 行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律第 4 条

電子化資料については、100年は相当に厳しい壁のようです。媒体自体はしっかりと作成すれば30年位は保存できるようですが、それを読み取るための機器とソフトウェアは努力しても10年位までしか用意できないとのこと。従って媒体変換や読み取り機器の変更を繰り返す必要があり、長い目で見れば保存にかかる経費は紙資料に比べてかなり大きいようです。電子媒体での資料保存について3名の方よりご説明がありました。

[国立国会図書館関西館](#)の本田氏より、長期保存の方法として、データの作成から保管、利用を経て破棄までの一連のプロセスとして考えられている「キューレーション」についての紹介がありました。工程としては以下の9つですが適切に実施するにはかなり経費がかかるようです。

1)長期保存を意識してのデータ作成、2)保存対象の選別、3)ビット列の保存、4)適切なメタデータの付与、5)適切な保存用システム等の整備や使用、6)問題の監視、7)問題が生じる前の対策、8)廃棄、9)啓発活動

また、電子化データは長期保存ができないため、マイグレーション(媒体(データ)の変換)を行う必要があります。この点について[東京都立中央図書館](#)の平安名氏より、実行例の紹介がありました。なお、日本の主な図書館でマイグレーションを実際に行っているのは東京都立中央図書館だけのようです。

同館では平成24年度に5~10年経過した光ディスクを点検したところ大半の光ディスクに問題があったため、平成25年度・平成26年度にDVD-R、CD-R、HDDのうち5年以上経過したものについてマイグレーションを行ったとのこと。経費は枚数にもよりますがDVD-R300枚程度を変換して1枚当たり2,500円程度とのこと。複製したDVD-Rについては、パリティエラー検査、時間軸方向での信号波形の揺らぎや乱れ、信号の

振幅、半径方向・接線方向の反りについて検査したとのこと。

マイグレーションのポイントは次の3点です。1)手に入れやすく、多くのユーザーに使われている装置を使用する、2)正常に終了したことを確認する、3)実行と結果を記録する。さらに問題となるのが、保存する媒体そのもので、この点について[日本文書情報マネジメント協会\(JIIMA\)](#)竹島氏より、光ディスクの構造や書き込みの原理、媒体とドライブなどについてご説明がありました。

私としては、ともすると媒体のみに注目しがちですが、それを書き込むドライブも重要で、しかも媒体との相性があるとのこと。JIIMAは、長期保存に係る認証制度を運用しており、JIIMAが定めた規格に合致する媒体とドライブの組み合わせに対して「JIIMA Certified」と書かれた認証マークの表示を認めています。認証されているメディアとドライブは示されませんでした。JIIMAのホームページの[「アーカイブ用光ディスク製品認証制度」](#)のページに媒体及びドライブの製品名が掲載されています。

電子媒体資料の長期保存については、国際的に見ても確立された方法は未だに示されていないので、資料を保管している機関としての保存方針を定め、できるところから実施するしかないとのこと。問題点は明白になりましたが、その具体的な対応については今後の課題として検討する必要がありそうです。なお、電子化資料の作成や検査の基準としてJIS Z6017という基準が定められています。

5. 終わりに

大会は昨年と比べてコンパクトになった印象ですが、参考になるお話を多く聞くことができました。来年も東京で開催の予定です。また、大会の概要や分科会の資料は[大会ホームページ](#)に掲載されています。

(しのはら よしお)

【支部図書館紹介】

「まんが」で森林・林業を知ろう

～情報誌と支部図書館との連携～

林野庁林政部林政課渉外広報班 板垣 靖

（まんがで森林・林業を解説）

日本は国土の約7割が森林です。森林は、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止、木材の供給等の多面的な機能の発揮によって、私たちの暮らしを守っています。

また、戦後に植林された人工林が本格的な利用期を迎える中、木材を利用することで、間伐や皆伐、再造林を進め森林を健全に育てていくことが求められています。

林野庁は、こうした森林・林業・木材産業の現状や施策、森林に関わる人々の活躍ぶり等について、国民の皆様幅広く知って頂くため、[情報誌「林野」](#)を毎月発行しています。

誌面づくりでは、親しみやすいものとなるよう、平成27年4月から、目にとまりやすいデザインを心がけ、山菜やきのこ等を利用した森の料理の紹介を取り入れるなどの見直しを行いました。

その一環として、同年5月号から、「まんがで森林・林業を知ろう」をテーマに、森林内の作業現場や動植物などを小学生から大人にまでわかりやすくイラストで紹介する「お山ん画（おやまんが）」の掲載を始め、好評をいただいています。

【これまでに掲載した「お山ん画」】

- 5月号「山歩きの基本は足元から」
- 6月号「今話題のコンテナ苗」
- 7月号「山の中は注意動物でいっぱいだ」
- 8月号「夏の林業作業 下刈りつつる切り」
- 9月号「鹿害と向き合う」
- 10月号「魅惑のきのこワールド」
- 11月号「きのこを食べよう」
- 12月号「日本伝統の炭（炭を知ろう）」

（読者の声）

「お山ん画」を見た多くの読者からは、①文字よりわかりやすく、林業に興味があった、②専門的なこともよく理解できた、③毎月楽しみで、子どもと一緒に見ている、④森林・林業の奥深さに感心した、などの声をお寄せいただきました。

「お山ん画」の効果もあってか、読者から毎月いただくご意見がそれまでの数十件から約200件と大幅に増えました。少しずつ林業への関心が高まっていることを感じます。



お山ん画「今話題のコンテナ苗」（「林野」6月号）

（図書館との連携）

林野庁の情報発信は、情報誌「林野」やパンフレット等の紙媒体、ホームページやメールマガジン等の電子媒体を通じて行い、読者

が着実に増えていますが、さらに多くの方に森林・林業について知っていただきたいと考えています。

このため、広報担当者が自ら外に出て働きかける PR が必要ではないかと考え、昨年 10 月からの 2 ヶ月間、来館者が多い林野庁図書館と連携し情報誌「林野」の出張展示を行いました。

林野庁図書館は、農林水産省の本館 1 階に本省図書館と併設され、共同で運営しているため、農業や水産業に関心のある利用者も取り込む効果が期待されます。

(展示の方法と工夫)

来館者の目に止まるよう、展示コーナーの柱を一本の大木に見立て、枝、葉を付け、野鳥が飛んでいる様子にしました。



展示スペース作成の様子

「お山ん画」の内容にあわせて、動物、きのこ、植物のイラストを配置したり、季節感を演出展示するために、葉を緑から紅葉に変更するなどの工夫をこらしました。また、これまでの「お山ん画」を小冊子にして配布し、持ち帰った利用者の職場や家庭で話題になることを期待しました。

さらに、図書館では、「お山ん画」の内容に関連した様々なジャンルの専門書を展示し、出張展示を通じて森林・林業に興味を持ち、

さらに専門書などの本も手にとっていただくことを狙いとしました。



大木に見立てた柱を飾りつけた演出¹

(展示の効果)

出張展示を行うことによって、森林・林業について興味をもって理解していただくことはもちろんですが、展示に関する専門書を借りる方も見受けられるなど、図書館利用の広報にもつながりました。

併せて、新着図書コーナーをはじめ、広く農林水産業に関する図書も見えていくという波及効果が現れていました。

(今後に生かす反省点)

来館者から、図書館に来て初めてこの企画を知った、展示情報を見て興味を惹かれる時もある、気づかないまま終わってしまうこともある、などの意見があり、図書館からの情報が広く伝わっていないのが現状です。

このため、展示についての PR を工夫するとともに、職員及び一般の方を対象に、展示の方法や今後行ってほしい企画についてアンケートを実施するなど、新たな情報発信等の取り組みの検討が必要と考えています。

どなたにも興味を持っていただき、本を手にとっていただけるような企画展示にして参りたいと思います。

(いたがき やすし)

¹展示についての農林水産省・林野庁図書館の取組については、[『びぶろす』63号\(平成26年1月\)](#) 記事を参照のこと(編集部注)

(展示に使った鳥類)



(左上から、キビタキ、コサメビタキ、
左下からコマドリ、オオルリ)

学術の発展を支える—支部日本学術会議図書館—

支部日本学術会議図書館 大森 審士

1. 概要

[日本学術会議](#)は、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的とした、我が国の科学者の内外に対する代表機関です¹。

支部日本学術会議図書館（以下、「当館」といいます。）は、日本学術会議に設置されており、日本学術会議事務局職員のほか、210人の会員と約2,000人の連携会員に主に御利用いただいています。



当館は、日本学術会議という特別の機関に設置されていることもあり、『Nature』や『Science』をはじめとする科学雑誌のほか、人文・社会科学、生命科学、理学・工学など様々な分野の学会の機関誌約160種類（和雑誌約100種類、洋雑誌約60種類）を所蔵しています。

2. 学術の価値

日本学術会議における図書館の役割を考えるに当たり、まずは、科学とは何かについて考えてみたいと思います。

「ポアンカレ予想」で有名なポアンカレ²は、ある事物について説明した理論は次々に刷新されていきますが、それらの関連を示唆した理論は他の理論の中にも装いを新たに表れる³ので、「唯一の客観的な実在は事物の間の関連であって、そこから普遍的調和が生まれる」⁴と考え、事物の関連性を究明する点に科学の価値を見いだしています。

「シュレーディンガーの猫」で有名なシュレーディンガー⁵は、科学の目的や価値について、科学に特に関心のない者は、その研究成果がもたらす技術や産業の実際的な発展にその価値があると考えがちですが、

1. 科学は、大学等知識発展の場で進められている他の学問と同じ流れの上にあるとみなされている。
2. 科学の中には、人間社会に対する実際的な意味合いを明らかにまったく持っていない分野もある。
3. 科学の急速な進歩を受けた技術や産業の発展によって人類の幸福度が増したという考え方に強い疑問がある。

¹ 日本学術会議法（昭和23年法律第121号）第2条。

² Jules-Henri Poincaré（1854-1912年）。フランスの数学者。「ポアンカレ予想」とは、1904年にポアンカレが発した疑問よりなる「単連結な3次元閉多様体は3次元球面に同相である」という仮説。ロシアの数学者 Grigory Perelman（1966年-）により解決された。

³ ポアンカレ（吉田洋一訳）『科学の価値』岩波書店、1977.5.p.281<国立国会図書館請求記号：M22-44>

⁴ 同上 p.283

⁵ Erwin Schrödinger（1887-1961年）。オーストリアの理論物理学者。1933年ノーベル物理学賞受賞。「シュレーディンガーの猫」とは、1935年に量子力学の問題点を提起するために発表された思考実験であり、ラジウムがアルファ粒子を発すると青酸ガスが発生して箱の中の猫が死ぬ実験装置において、仮にアルファ粒子が発生する確率が五分五分だとすると、猫は生死の状態が1：1で重なり合っていないからなくなるというもの。

と反論し、科学の目的や価値は、他のどんな学問分野とも同じで、「我々がどこからやってきて、どこへ行くのか」をできる限り解き明かそうとすることである⁶と述べています。

ここでは、科学といっても、特に理学について述べられた例を挙げましたが、研究対象の他との関連性を探求し、「我々がどこからやってきて、どこへ行くのか」という命題を解き明かそうと試みるのが、総じて学術の価値なのではないかと思えます⁷。

3. 支部日本学術会議図書館の役割

ところで、科学の歴史を振り返るに、古代ギリシャの知識がそのまま欧州で進展していったわけではなく、古代ギリシャの知識はアラビアにおいて温存・進展され、それを欧州が吸収して新たな科学を形成していったそうです⁸。やはり、「我々がどこからやってきたのか」を認識することは必要であったし、その上に立ったからこそ新たな科学を形成することができたのだと思えます。ニュートンの「私が遠くまで見渡せたのだとしたら、巨人の肩の上に乗っていたからである。」⁹という言葉に当てはめると、これまでの学術の成果を収集・保存し、それを利用に供することにより、利用者を巨人として支えるのが、当館の使命であると考えています。

4. おわりに

「科学と芸術によってのみ文明は価値がある」¹⁰。これは、先に紹介したポアンカレの言

葉ですが、単なる技術や産業の発展ではなく、真の意味での科学の向上進展こそが、我が国社会を豊かにするのだと思えます。当館は、これからもあらゆる学術の向上進展のため、ひいては、よりよい我が国社会のために、縁の下の力持ちとなって、利用者を支えていきたいと思えます。



【開館時間】 10:00～17:00

土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始
(12月29日～1月3日)を除く。

※ 一般の方も、事前に御連絡いただければ、学術研究及び調査のため閲覧することができます。

(おおもり ただし)

※本稿において述べた意見等は、すべて筆者の個人的な見解です。

⁶ エルヴィン・シュレーディンガー (水谷淳訳)『自然とギリシャ人・科学と人間性』筑摩書房 2014.7,p.132-136<請求記号：M22-L19>

⁷ 事物の存在理由を問うのは哲学であり、「科学を為すのは哲学をするものとしてのわれわれでなければならない。」という考えもある。鷲原知宏『『存在と時間』期の科学論』『科学と技術への問いーハイデッガー研究会第三論集ー』山本英輔ほか編,理想社,2012.7,p.52<請求記号：HD86-J39>

⁸ B. C. ヴィッカーリー (村主朋英訳)『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房,2002.12,p.43-46,及びp.55-66<請求記号：M31-H3>

⁹ 1676年、Issac Newton (1642-1727) が Robert Hook (1635-1703) に宛てた書簡に記された「If I have seen further it is by standing on ye sholders of Giants.」で知られる。

¹⁰ 前掲注3、p.288

【各国在日図書館紹介】

OECD 東京センター閲覧室について

—世界最大のシンクタンクからの情報提供—

OECD 東京センター 高橋 しのぶ

はじめに — OECD について

[OECD 東京センター](#)は、国際機関である経済協力開発機構（OECD）¹の広報と、出版物の販促活動を担うセンターです。OECD に対する理解を促進するため、日本をはじめ、中国、韓国、台湾、東南アジア全域に向けて、情報発信を行っています。

[OECD](#)は、第二次世界大戦後に米国が推進した欧州復興計画（マーシャルプラン）の運営のために 1948 年に設立された欧州経済協力機構（OEEC）に端を発しています。経済の相互依存を理解した欧州各国が協調の時代に向かって歩む象徴となりました。その成功を受けて、協力と援助の対象を世界に広げるために、米国とカナダが加わり、1961 年に OECD が設立されました。日本は 1964 年に加盟しています。2015 年現在の加盟国数は 34 か国で、さらに 4 か国が加盟に向けた手続きを行っています。OECD では、様々な分野について、加盟国間の分析・検討を行ってきましたが、グローバル化に伴い、経済、社会、環境、教育、税、コーポレートガバナンスなど、どの分野をとっても国境を越えて問題に取り組むことが不可欠になっています。OECD も加盟国政府だけでなく、台頭する新興諸国を始めとする非加盟国、国際機関、また産業界、NGO などとの協力関係を強化しています。

OECD は「世界最大のシンクタンク」と呼ばれることがあります。しかし、単に「think（考える）」だけの機関ではありません。各

国政府にベストプラクティスの実践を促す提言を行っています。強制力はありませんが、実際には多くの国々が OECD からの提言を取り入れています。その力を担保しているのが、各分野の先駆的な研究者による体系だった議論と正確な最新データに基づく分析です。

OECD が持つこれらの知見とデータの多くは、出版物やデータベースとして公開しています。OECD 東京センターの閲覧室では、これらの出版物と OECD iLibrary というオンラインライブラリーをご利用いただけます。

OECD 東京センター閲覧室

OECD 東京センターには小規模ながら閲覧室があります。閲覧室にはインターネットに接続できる PC を備えています。



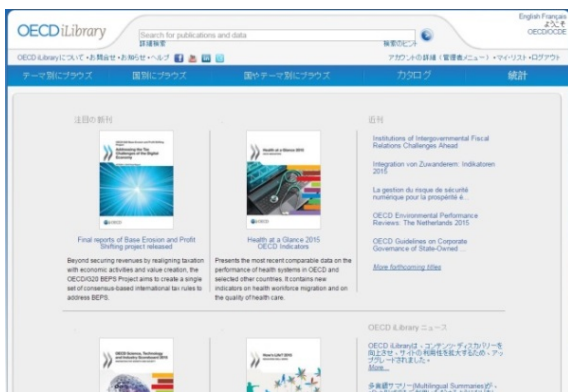
OECD 東京センター閲覧室

1. OECD iLibrary

[OECD iLibrary](#)は、OECD が世界各国、国際機関などから収集している統計データと、OECD の研究者などによる主に経済社会問題に関する分析結果、各国への提言などをまとめた報告書を集めたオンラインライブラリーです。OECD の報告書、統計集で 1998 年以降に出版されたものをデジタル化して収録

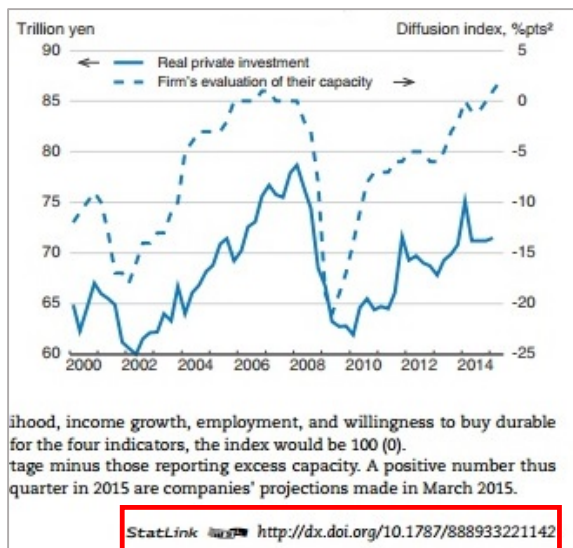
¹ Organisation for Economic Co-operation and Development 本部はフランス（パリ）。

しています。



OECD iLibrary

OECD の研究分野は多岐にわたっており、国際社会が抱えるほぼすべての課題を網羅しているといえます。OECD iLibrary ではそれらを 17 のテーマに分類して収録しています。報告書や統計集は普通の PDF ファイルですが、そこに掲載されている統計表、グラフなどのデータをエクセル形式でダウンロードできる *Statlink* という画期的な機能がついています。



Statlink の例

また、OECD が加盟国に加え、非加盟国政府と国際機関から集めている統計データは、[OECD.Stat](http://www.oecd.org/stat) というデータベースに収録しており、利用者が自分で統計指標を選びオリジナルの統計表を作成、エクセル形式などでダウンロードできるようになっています。OECD iLibrary に収録されている資料数は

モノグラフとジャーナルだけでも約 10,000 タイトルに上ります。この膨大な資料の中からキーワード検索で目当てのものを見つけられるのが、オンラインライブラリーの利点です。例えば「Olympic」というキーワードなら、アテネやロンドン・オリンピックの地域経済への貢献といったことを扱った文献などがヒットします。

2. 冊子の閲覧

閲覧室では、OECD の出版物の冊子も所蔵しています。新しい出版物は上記の OECD iLibrary でご利用いただけるため、最近 2 年分の約 500 冊とデジタル化されていない 1997 年以前の出版物 2000 冊、電子版がない日本語翻訳版を所蔵しています。

欧州では冊子離れが日本より遙かに進んでおり、OECD でも冊子の初版印刷部数を減らしています。OECD の出版部門の主流は電子化、オンライン化です。

おわりに

OECD 東京センターでは、OECD の活動や統計などについての問い合わせにもお答えしています。また、閲覧室利用者の方々の必要に応じて、資料探しをお手伝いしています。

その他、パリ本部の専門家を講演者としたセミナーを開催しています。

また、OECD iLibrary は国立国会図書館や千代田区立日比谷図書文化館、主要大学図書館などでもご利用いただけます。

当館へのご来館、セミナーへのご参加をお待ちしております。

(たかはし しのだ)

OECD 東京センター：

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-1 日本プレスセンタービル 3 階

Tel. 03-5532-0021 / Fax. 03-5532-0035

E-mail. tokyo.contact@oecd.org

ホームページ：<http://www.oecd.org/tokyo/>

開館時間：平日 9:30~17:30 (土・日・祝日は休館)

日 誌（平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月）

平成 27 年	9 月 7 日 ～10 月 14 日	支部図書館・分館ヒアリング
	10 月 1 日	支部図書館長異動 厚生労働省図書館長 森川 善樹 （前 三富 則江）
	10 月 15 日 ～16 日	日本図書館協会全国図書館大会 平成 27 年度（第 101 回）東京大会
	10 月 20 日	平成 27 年度行政・司法各部門支部図書館新規配属職員研修（秋期） 「支部図書館制度等に関する説明会」 「国立国会図書館の見学」 「利用者サービス案内の基礎」 「NDL-OPAC の検索、各種サービスと申込方法」
	11 月 10 日 ～12 日	第 17 回図書館総合展
	11 月 20 日	平成 27 年度第 2 回兼任司書会議
	12 月 7 日	平成 27 年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会 特別講演「図書館の保存環境整備に関する基礎知識」 （館外講師：佐野 千絵（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 保存修復科学センター副センター長））
	12 月 11 日	平成 27 年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 「支部総務省統計図書館の概要説明及び見学」
	12 月 15 日	平成 27 年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 「個人情報保護法と図書館」（館外講師：宮下 紘（中央大学総合政策学部））

*****名称変更のお知らせ*****

支部図書館分館の名称が変更になりました。（2015 年 10 月 1 日付け）
 新名称：支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館
 旧名称：支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局筑波事務所分館
 なお、住所、電話番号、英語名称は変更ありません。

国立国会図書館刊行物紹介（平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月）

当館 HP に公開されている刊行物の中から、平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月の間に公開された記事の一部を紹介します。

[『国立国会図書館月報』](#)

国立国会図書館の蔵書や各種サービスについて総合的に紹介する広報誌です。2004 年 4 月以降は PDF 形式でご覧いただけます。

- 「ダイナミックな図書館：アクセス、発展、変化」世界図書館・情報会議 第 81 回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会 ([656 号 \(2015 年 12 月\)](#))
- 憲政資料室の新規公開資料から ([655 号 \(2015 年 11 月\)](#))
- 特集展示 1945 終戦の前後、何を読み、何を記したか ([654 号 \(2015 年 10 月\)](#))
- ・ ([2015 年刊行分一覧](#))
- ・ ([2014 年刊行分一覧](#))

[『調査と情報』－Issue Brief－](#)

国政上の重要課題について、その背景・経緯・問題点等を簡潔にとりまとめた雑誌です。

- No.888 「[アジアインフラ投資銀行 \(AIIB\) の概要](#)」 (2015.12.24)
- No.887 「[銀行勘定の金利リスク規制－バーゼル銀行監督委員会の規制案と日本への影響－](#)」 (2015.12.21)
- No.886 「[東京圏への人口一極集中と人口減少対策](#)」 (2015.12.17)
- No.885 「[郵政のユニバーサルサービスと確保策](#)」 (2015.12.15)
- No.884 「[環太平洋パートナーシップ協定の概要－TPP 交渉の大筋合意を受けて－](#)」 (2015.11.30)
- No.883 「[女性国会議員比率の動向](#)」 (2015.11.24)
- No.882 「[離婚後面会交流及び養育費に係る法制度－米・英・仏・独・韓－](#)」 (2015.11.17)
- No.881 「[いかに土砂災害に備えるか－広島土砂災害の教訓－](#)」 (2015.11.10)
- No.880 「[酒米の生産をめぐる状況](#)」 (2015.11.10)
- No.879 「[農業分野の TPP 関税交渉の経過と大筋合意](#)」 (2015.10.27)
- ・ ([2015 年刊行分一覧](#))
- ・ ([2014 年刊行分一覧](#))

[『外国の立法』](#)

諸外国の立法動向を簡潔にまとめています。季刊版と月刊版があります。

- 「[【アメリカ】アメリカにおける人質返還政策の見直しと関連立法－政策見直し報告と大統領令を中心に－](#)」 No.266 (2015 年 12 月：季刊版)
- 「[【アメリカ】銃規制問題をめぐる立法動向](#)」 No.265-2 (2015 年 11 月：月刊版)
- 「[【アメリカ】航空保安体制の強化に向けた立法動向](#)」 (No.265-1 (2015 年 10 月：月刊版))
- ・・・他

また、月刊版では、各国の立法情報をコンパクトにまとめた短信も掲載しています。

- ・ 2015 年 11 月：月刊版 [短信](#)
- ・ 2015 年 10 月：月刊版 [短信](#)
- ・ ([2015 年刊行分一覧](#))
- ・ ([2014 年刊行分一覧](#))

『[カレントアウェアネス](#)』

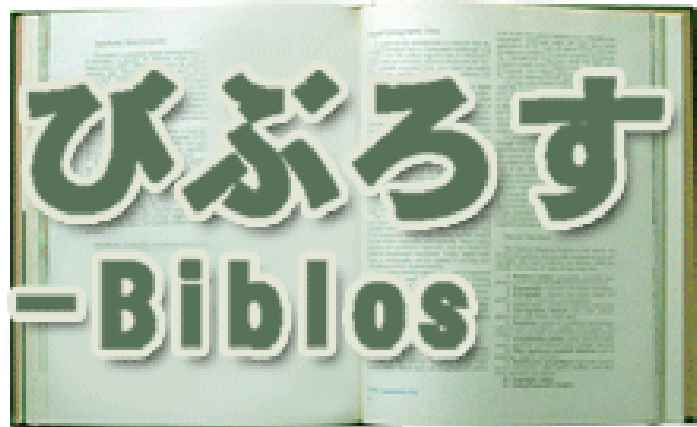
図書館及び図書館情報学における、国内外の近年の動向及びトピックスを解説・レビューする情報誌です。

「[事例報告：北米の大学における日本古典籍の電子化事業](#)」(No.326 (CA1859-CA1864)
2015.12.20)

・・・他

※※次号『びぶろす』72号のお知らせ※※

2016年4月発行予定です。



71号

平成28年1月

発行 / 国立国会図書館総務部
ISSN : 1344-8412

web版ではリンクをご活用いただけます

<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/>

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan